



傲嬌王子抱き枕

成人
指定表現
R18
R18G
獵奇
同性愛
男性

傲慢王の執り

※本書には猟奇表現、暴力表現が含まれます。
※本書の内容は全てフィクションであり、実在の人物や団体とは一切関係ありません。
※本書の18歳未満の方の閲覧、購入、所持は固く禁じます。

とある時代のとある場所
悲鳴の絶えない国があつた

クローナ王国
王城

私の命は…構いません
ですから民を…

これ以上虐げるのは
どうかお止めください…

ルシエ様!!

……
つまらない

我が城まで乗り込んで
何を言い出すかと思えば

英雄気取りの
くだらぬ口上…



お前には
私に利益を
もたらし
償ってもらう

わ、私にはルシエ様にお与えできるものなどは…この命しかございません…っ



私に逆賊の願いを
聴く義理があるか？



お前に会いたがって
いたようだったからな
嬉しいだろう？

マルク…！



父さん…！

お前の血肉を
分けた

我が国の
大切な財産だ

ふいっ…



何を言う
お前にはまだ立派な
資産があるではないか

ふいっ…

なぜ逃げなかった
マルク……!!

父さんを置いて
逃げたりするもんか!

ルシエ様!!
どうか父さんをお助け下さい!!
僕にできることは
なんだってやります!

よせマルク!
ルシエ様!!
息子はまだ子どもです
どうかお慈悲を……!!

僕が父さんの分まで働きます!
二度とルシエ様に逆らいません!
僕は必ず国の為に尽くします!!

ふむ……

良い心がけだ
私は臣民に慈悲深いぞ
安心するが良い

お前が本当に愛国の民であれば
特別にあの逆賊を救ってやろう……

ほ、本当ですか!!
ありがとうございます!!

僕、頑張ります!!
きっと役に立ちますから!!

あ……ダメだ……!!
よせマルク!!
逃げるんだ!!



お前の息子はよく
働く良い臣民だった

あ…あ…

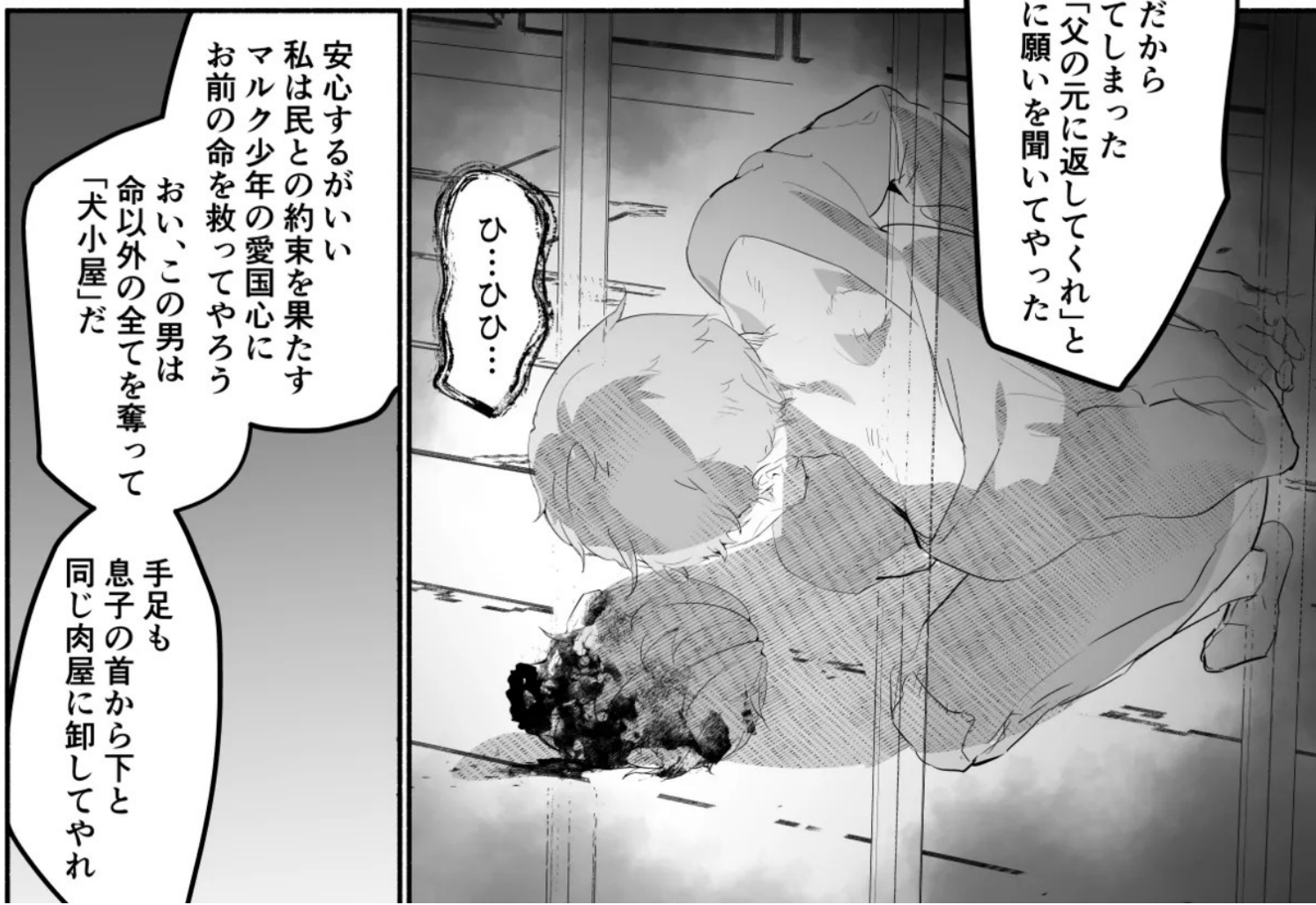
芸人の仕事をやった
自分の手足を喰う人間は
客人にも評判でな
随分チップを集めていたぞ

マルク…
あ… そんな…



髪も随分
抜けたな
涙ぐましい
献身だ

あまりに必至だから
私も情が沸いてしまった
「殺してくれ」「父の元に返してくれ」と
乞うので特別に願いを聞いてやった



ひ…ひひ…

安心するがいい
私は民との約束を果たす
マルク少年の愛国心
お前の命を救ってやろう

おい、この男は
命以外の全てを奪って
「犬小屋」だ

手足も
息子の首から下と
同じ肉屋に卸してやれ



とある時代の
とある場所
悲鳴の絶えぬ
国があった

始まりは王妃の死であった
王妃の命と引き換えに王子は生まれ
かつて名君と言われた王は
心を失い腑抜けた

少年は王子として
国を導く立場に
駆り立てられ

^{王子}彼の周りの大人たちは
皆、媚びへつらい
すり寄った

王子は父の愛も
母のぬくもりも知らず
醜い欲望だけに囲まれて育った



孤独な少年は、
雪の精のように美しく育ったが
その身に流れるのは
恐ろしく冷たい血液であった。

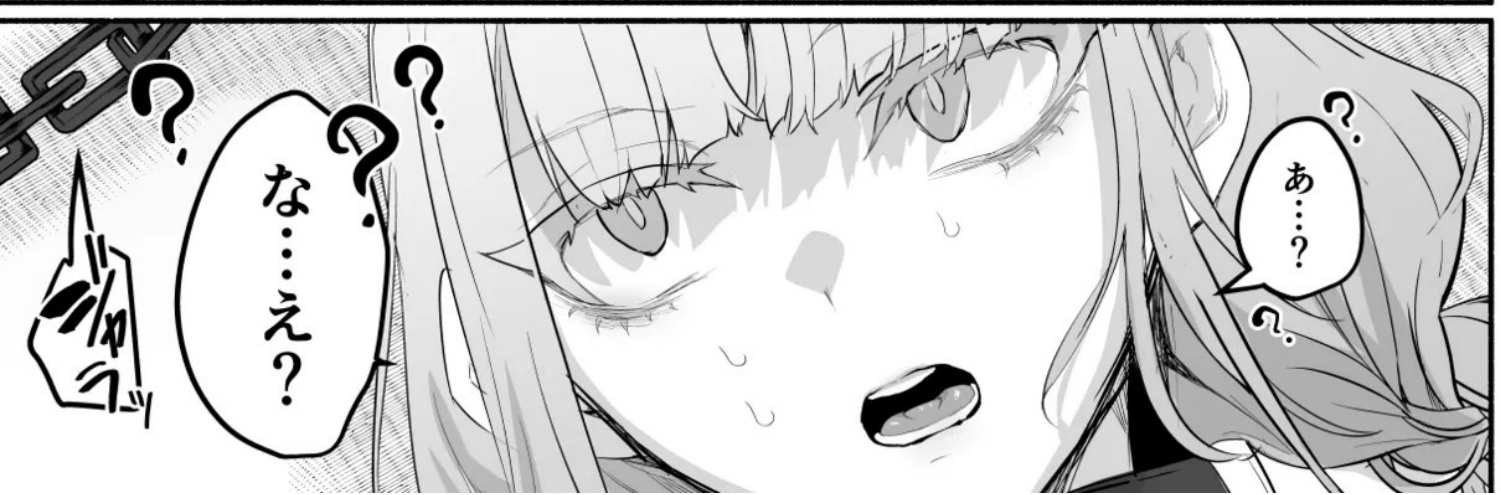
その心を慰めるのは
弱者の嗚咽と悲鳴。
「氷の天使」と謳われた
彼の城では
毎夜血肉で宴が開かれた

重税に憤る国民
王子を諫める聡い臣下
目障りに感じれば誰でも
国一番大きな広場で
見せびらかすように処刑し

気まぐれに生かした罪人も
四肢と眼球を除き、喉を焼き、
見せしめとして
城下で人犬として飼った

心を失った美しい少年の王が
頂点で民を踏みつぶす
飢え細り減びゆく
醜い国がそこにあった――







な…何の真似だ…
貴様ら

首…

繋がれている…?

首だけじゃない…
手も…足も…



どこかで見た顔…
人数は2人か

薄汚い壁…血の匂い…
おそらく王城の医務室…
謀反など長くは持たないはず

わざわざ生かして
捕らえたということは
目的は人質か…?

たいそれたことを…
下民の命では
釣り合わん愚挙だ

私に臭い罪人の
息を吸わせたこと
万死に値する…ッ
楽には殺さんぞ…

おっかねえなあ
さすが王子様
誇り高いねえ

命を握ってる相手に
下手な口をきけば

なっ!?

おはあ

きゅ

ぐりゅ

ぐりゅ

ぐりゅ

相手を怒らせるとか
思わんですか?

おおなんちゅう馨しい...
男とは思えん
これなら問題ねえな

どういうつもりだ
貴様ら...!!

今すぐやめろ!!
この...っ!!

それにこの白蠟みたいな肌...
指に吸いつくみてえだ
痩せこけた売女とはちげえ

すっ♡

きゅ

ぐりゅ

すっ♡

さ、触るな
おぞましいっ

人でなしのくせに
見た目だけは間違いなく
国の宝だぜ

下の毛もツルツルたあ
王子つってもガキだねえ

っ♡

すっ♡

女の子みたいなの
女々しいチンポ
してやがる

下劣な...ッ

貴様ら
この私に無礼な口を…ッ

あーもう
黙らせちまえ

貴重なケシ汁を
たっぷり吸わせてある
ありがたく味わえよ

ケシ…?
何のつもりで…?

くそ…
意識が…

どうやらしばらくは
私を殺さない心づもり
好都合だ…

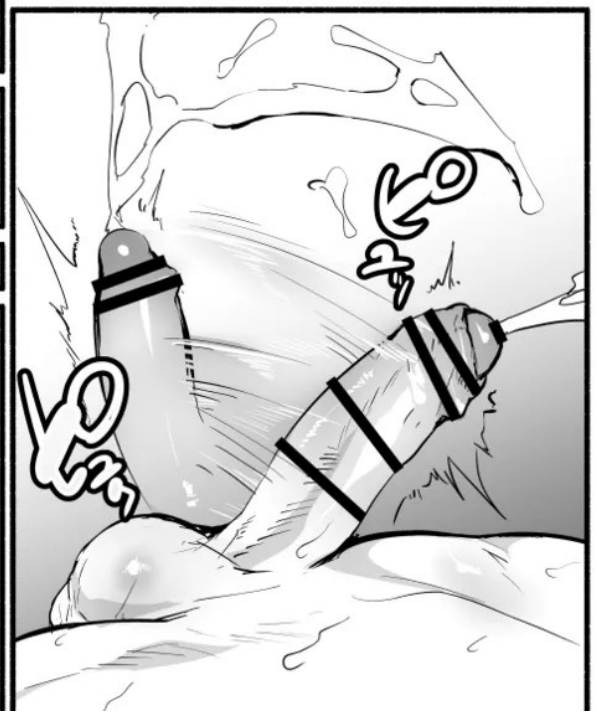
枷はゆるんでないな
服もあげたまま留めろ

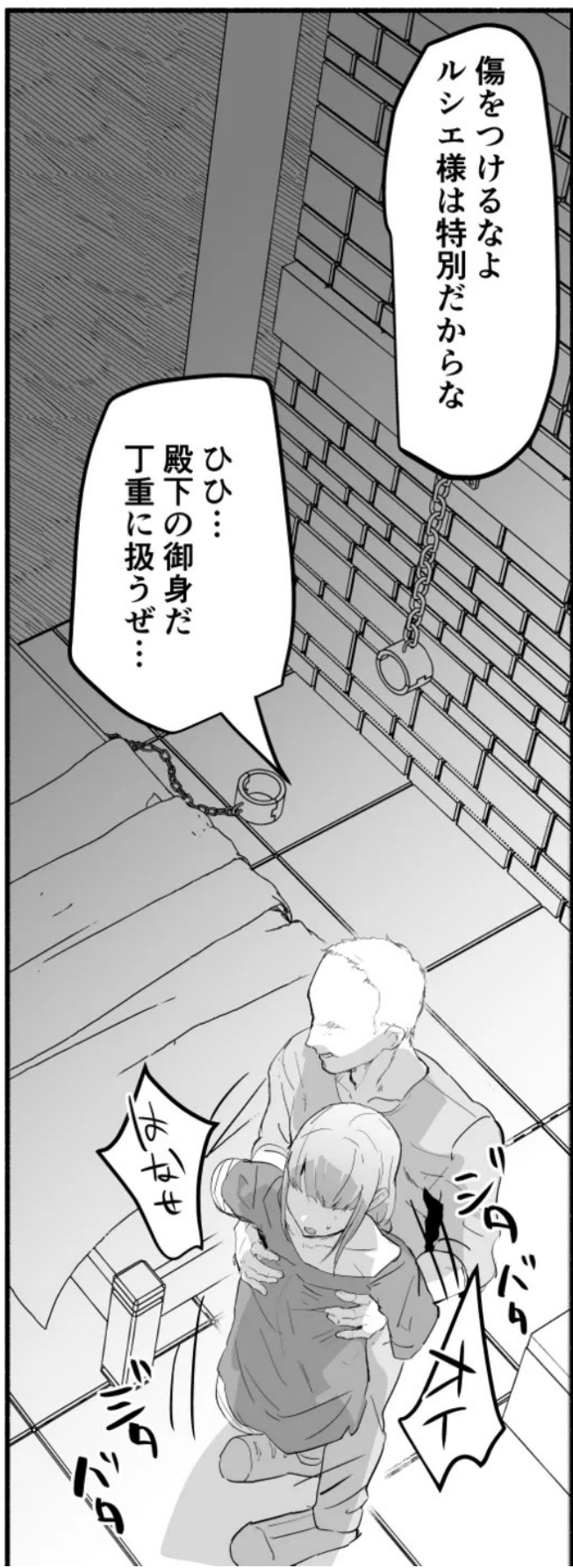
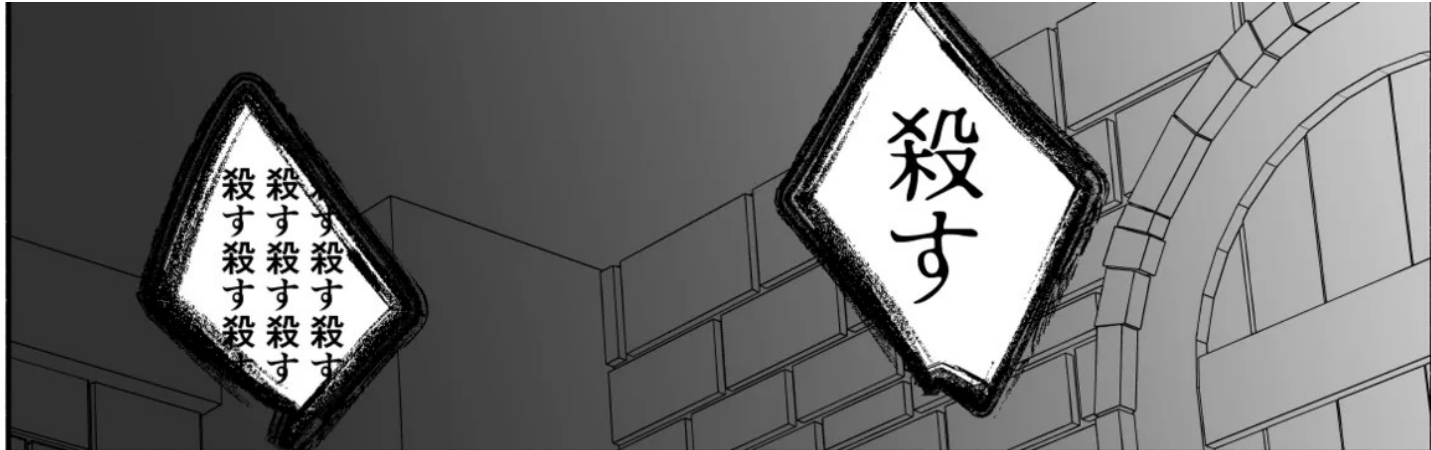
犬以下の汚物共…
殺す…殺してやる…

この私に反するなど…
絶対に許さない…

生きてさえいれど
必ずコイツ等を
犬に食わせて
処刑台に送って…







傷をつけるなよ
ルシエ様は特別だからな

ひひ…
殿下の御身だ
丁重に扱うぜ…



殺してやる…
離せ!!
触るなよ!!
お前らみんな
殺してやる!!

馬鹿か?
離れたら痛いぞ
お前
こんだけ元気なら
大丈夫だな
頼んだぞ
良くしてやってくれ

へへ…
確かにルシエ王子だ
信じられねえ
役得だねえ



本当に元気ですねえ
手足をちよん切られた
とは思えねえ

き...
気色悪いっ...!



そんなに怯えなくても
もうどこも切らねえよ
多分な

痛っ



じゃ早速...
おお...すげえ
王族は肌ツヤが違えな
いつまでも触ってられるぜ

触るな俗物が!
なんなのだ!!
貴様ら全員殺してやる!!



おほ
うめえ

ひい...っ

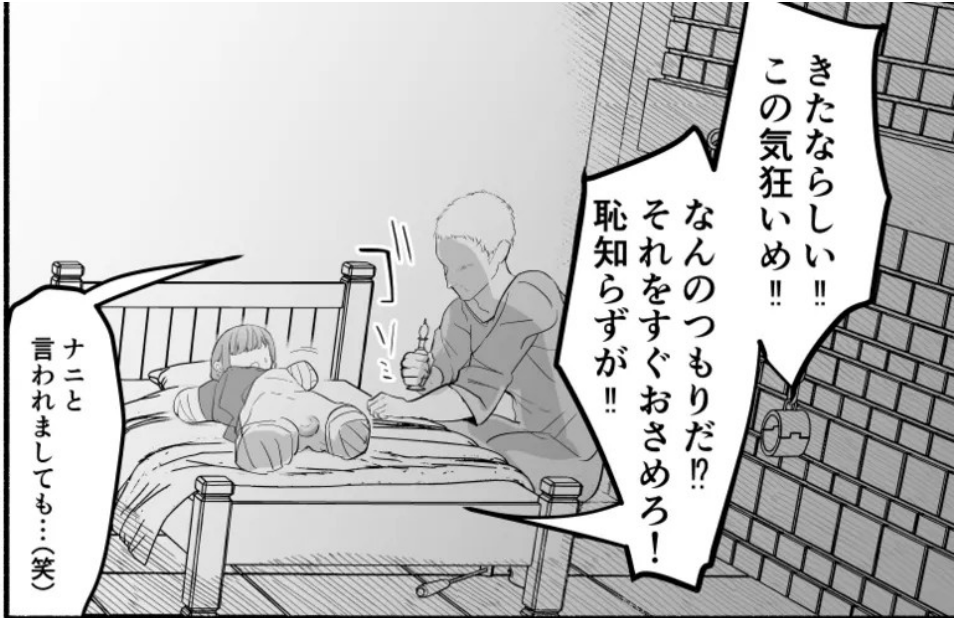
第一よ
怯えても凄んでも
脅しても
もう何の意味もねえ

せいぜい
良い子に
なることだな



おさめたいのは
やまやまですがねえ

王子で



ナニと
言われましても…(笑)

きたならしい!!
この気狂いめ!!
なんのつもりだ!!
それをすぐおさめろ!!
恥知らずが!!



いきなりブチこんだら
大目玉喰らっちゃう



すげえ喰い付きだ
いい穴だなこりゃ



冷たっ
な…何を…っ

どどこを
触っている!

生白いケツ♥
スベスベで
手に吸い付く
ようだぜ



よしよし拡がってきたな
ルシエ様でもクソ垂れるもんなあ
お前もケツひりの感覚よく覚えろ

頭が
おかしいのか
貴様ーッ!!
け、汚らわしい!!
やめ...っ

広げるなア!

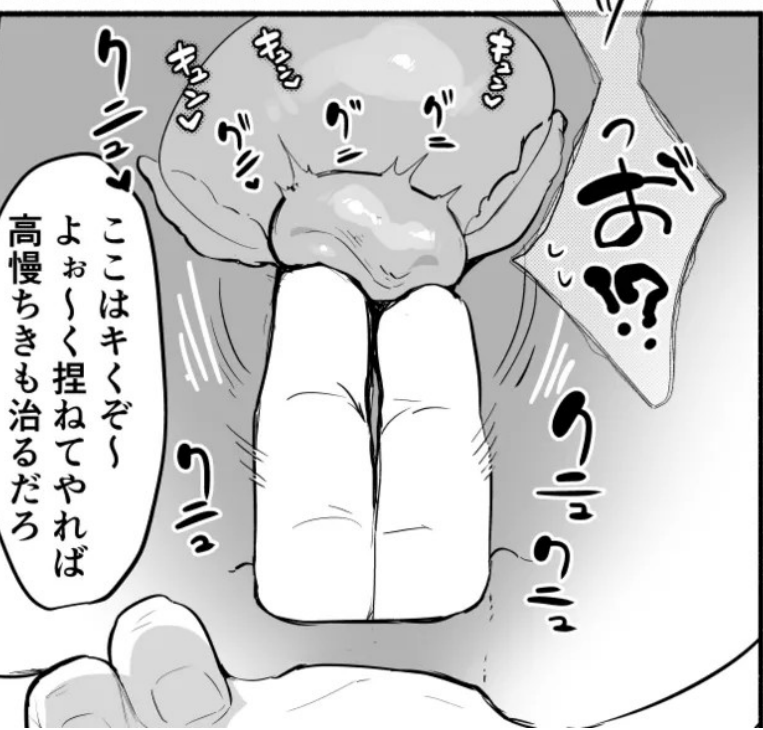


やめろっ!!
やめろおっ!!

尻の穴をほじくられて
ペニスをお勃起あそばして
たいした王子だぜ



早くいい牝豚に
なれよう



ここはキクぞー
よおしく捏ねてやれば
高慢ちきも治るだろ



ほれ
まだ気持ちいいの
くるぞ

はっ♡
はっ♡
とっ♡と
受け入れちまえ



おいおい
指一本触れてない
メスチンボから
透明なのが糸引いて
腹についてますよ

気に入ったようで
何よりですねえ



ルシエ様といえど
年頃のカキだ
マスカキくらい
したでしょう

手足だけじゃなく
男とも今日で
お別れだ
こっちも
扱いてやる

腰なくなるう♡♡

おおすげえ♡
全身で腰振ってら

氷の天使とうたわれた
ルシエ王子もこうなりや
ただのいじきたないメス豚だな

そろそろ
ケツマンコアクメ
きますからねー

やめ…♡
おめ♡

それ以上は…♡

この感覚なしじゃ
生きられなくなるまで
脳ミソにしっかり
刻み付けるからなア

畜生に生まれ変わった
記念の豚アクメ
よく味わえよ



おめ♡
愛おしそうに指抱きしめて
イキやがって
その気持ちをはんの少しでも
国民に分けてやればなあ

その日からルシエには
全身に牝化調教が施される

何時間も媚薬漬けにして
育てた甲斐あって
扱けるくらいビンビンに
なりましたねえ

ちよっとした
ガキのチンポくらい
ありますよこの乳首

乳母や使用人の女と比べても
見たことがないほど肥大化した
恥知らずなメス豚の乳首でしょう



乳首快楽は浸み込ませただけ
一回もイかせておりませんからね
おつらいでしょう

王家の礼儀作法を持って
いき乞いすれば
ちゃんと乳首アクメさせて
さしあげますよ

イラ...

だ、誰がそのような
貴様のような下賤で狂った
ことを...

おやおや
まともな社交儀礼も
備わってないのかよ
お家が知れるぜ



ったく

手のかかる
ガキだ





じゃあな
お望み通り下賤な民は
ルシエ様に指一本
触れないからよ

媚薬と蛙の油を
混ぜた搔痒剤だ
高えんだぞ

これはキくぞー
どんだけ強情な奴でも
狂っちゃう

な、何...?

おいっ
どこに行くお前!!



殿下も男だ
チンポの扱いは
わかるな？

舌で隅々まで舐めまわして
唇をすぼめて吸いつけよ
チンポに媚びて感謝しながら
しゃぶるんだ

こんな…汚らしいものを…
口に含めと…？



上手に出来たらご褒美に
破裂しそうな勃起乳首
滅茶苦茶に虐めて
イかせてやるよ

やらねえならいいぜ
別の豚の調教に
行くからよ



ちくしよう…っ
もう頭が…
頭がおかしくなる…っ

よろし
良い子だ♡

おほっ…
ルシエ様の舌ペロ…♡
なかなかお上手ですよ
さすが王族

気をつけろよ
少しでも歯を立てやがったら
全部の歯ア抜かなきゃならねえ

おお…そうだ…そこっ…
もつと細かく丁寧に舐めませ…
おほ…っ♡たまらん…♡

まともに動かせるのが
もう首から上しかねえからか
器用なモンだぜ

よおーし
そろそろ入れるぞ

ん…?
ん…?
ん…?

もつと喉奥開いて受け入れろ！
抵抗するんじゃねえ！

おほっ♡
氷の天使も
ロマンコはアツ♡

苦しいなあ
よしよし♡

ほくらゴシゴシ
ご褒美ですよ♡
乳首疼いて
辛かったですね♡

苦痛と快楽
セットで覚えて
窒息でいく豚になれ

乳首アクメ声の
振動いいぞ♡

乳首締め上げると
喉元も締まるっ

頭が…っ
ビリビリするう…

オラ乳首両方扱いてやる
イけ！イけ！

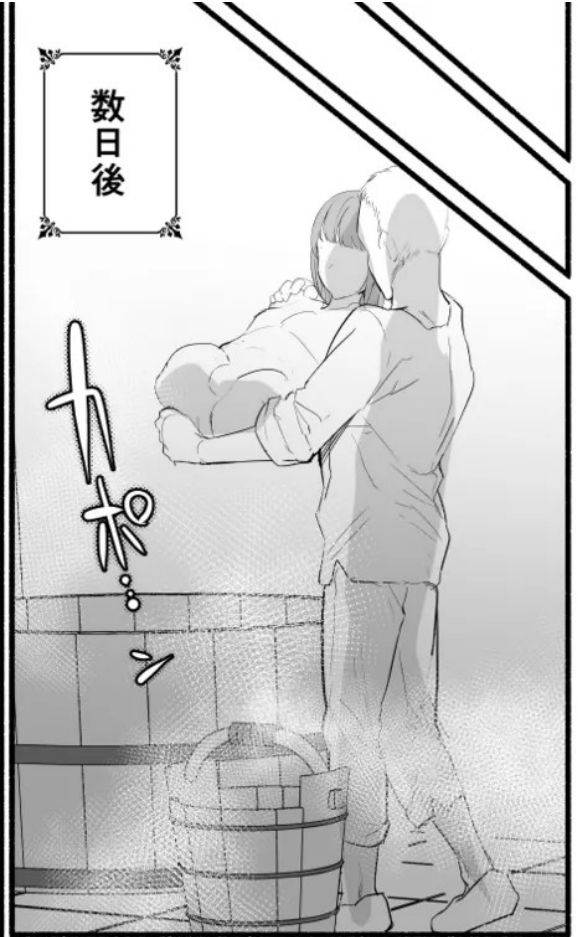


おお〜…♡
射精る♡

全部飲めよ…♡
そうそう…♡



窒息しながら
乳首アクメで射精しやがって
偉いぞオイ





隣国セイレヴの国王様は
我が国の奴隷家具を
いたく気に入っておられるからな

家具…!?

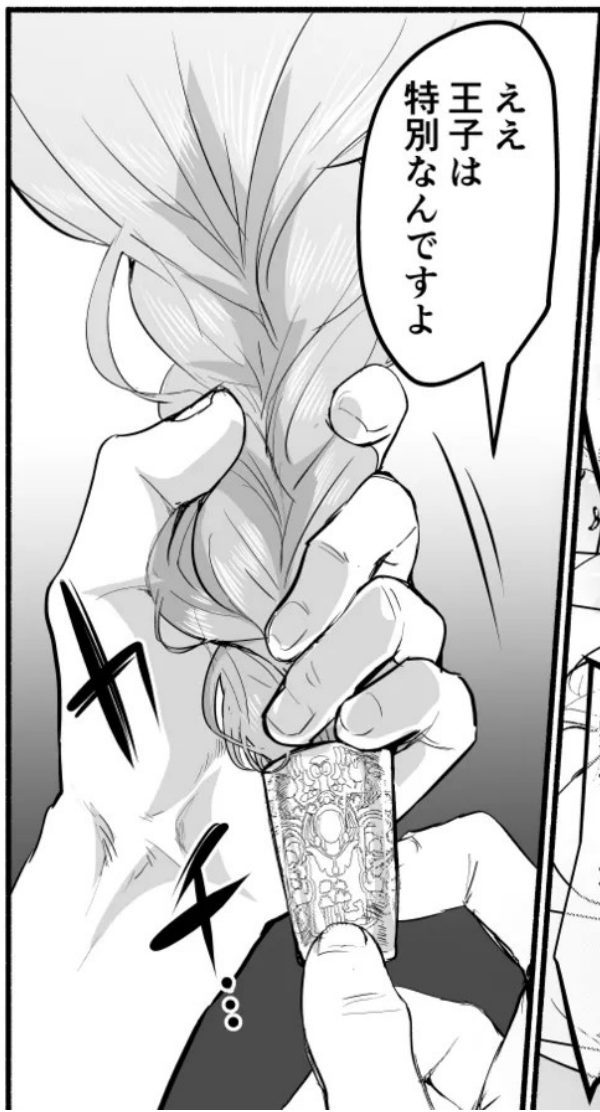


ご存じなかったんですか?
殿下が犬にした罪人はよ
加工して隣国に卸してんだよ

殿下の絹糸みてえな髪は
泡立ちが違いますねえ

ちよ…
え…?

さあ
流しますよ



ええ
王子は
特別なんですよ



おい
さっきから
何を言っている!?

よしよし
私も
名残惜しいですよ

違う!!
王子である私を…!!
家具!? 出荷だと…!?

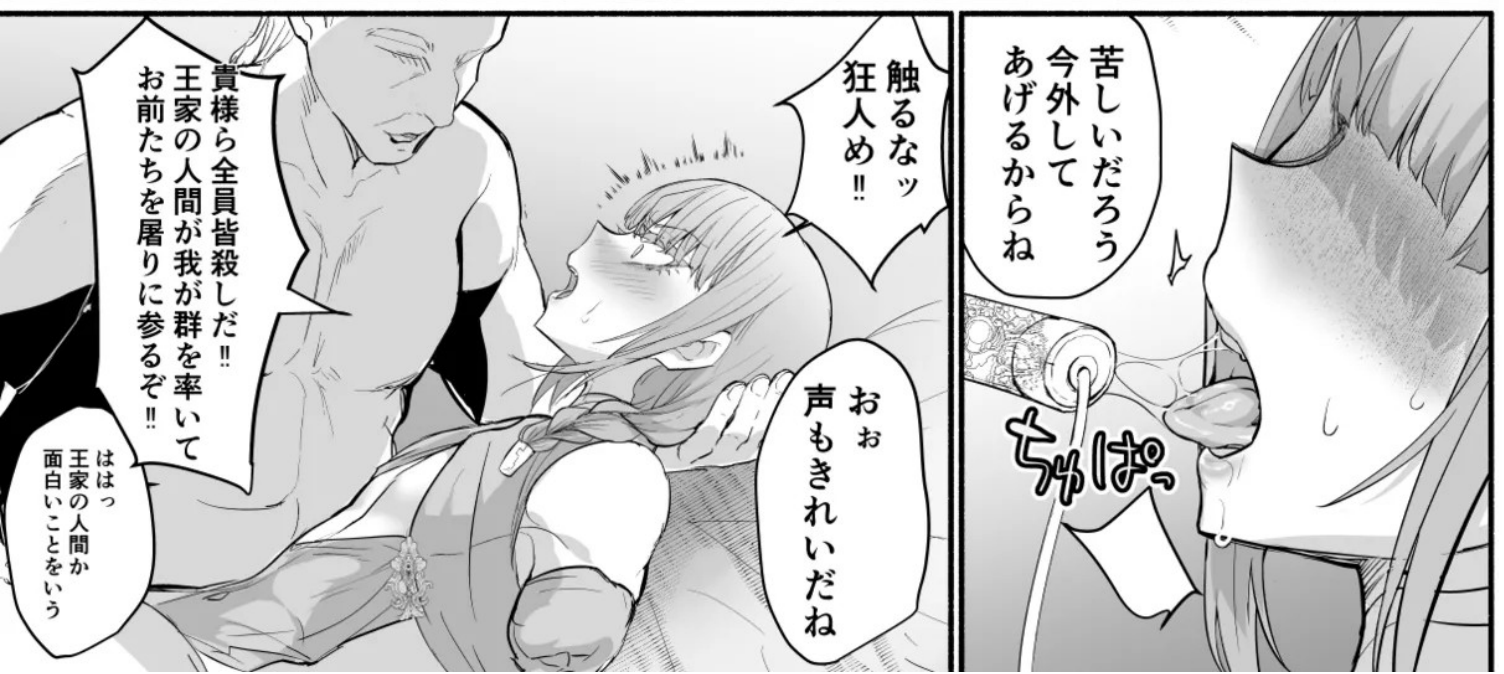
あなたはセイレヴ王国へ
献上されるのです

この国と
ともに

しっかり飾りましょう
良い布を仕入れました

どうぞ
お幸せに…





震えているじゃないか
すぐに暖めてあげよう…

来るな!!
来るなよおっ!!

潤滑油を注いで
栓をしてあるとは
準備が良い

ハハハ
そんな身体で
逃げようとする
枕は初めてだ

卑猥な形だが黒ずんでいない…
約束通りまだ使われてないな

初物の
抱き枕は
やはり
最高だっ…

今使って
あげるよ♡

いっ…!!

なんて馨しい香りだ…
この世のものとは思えんっ

やめろ…っ
やめて…
もう嫌だ…

誰か…
父上…っ

父上?



父から王位を奪った
冷酷王子と聞いてたが
噂は当てにならないね

いやだっ
助けてっ父上っ



捕まえたっ♡

哀れな声で懇願されると
余計に怒張が張り詰めるッ

狭くてねっとり
奥に誘うような
卑猥な牝穴ッ：

ペニスを煽るオカズ付き
オナホ枕ッ♡

あっ♡♡

あ...

食いちぎるように締め付けてくるのに
奥は舐めまわすように柔らかい肉が
ちゅぱちゅぱと吸いついてくるッ

憎しみが恐怖が…
男根で押し潰されていく…

父上の仇に性具のように
扱われて…

私は…
クローナ王国を
統べる…っ

チンポを慰めるためだけの
卑猥な身体してまだ王子のつもりか
惨めでかわいい肉枕だ♡

それに
キレイな顔して
なんだこの乳首は!!

やめ…っ♡
私は…あ♡

ち、ちがう…
私はっ…♡

私はっ♡

抱き枕
なんだよ!!

国と共に
民に売られ
王は死んだ
哀れな王子

主人
私以外何もない
捨てられたら
ゴミになる家具



私には…何もない…？
民も国も…父上も…
もう…

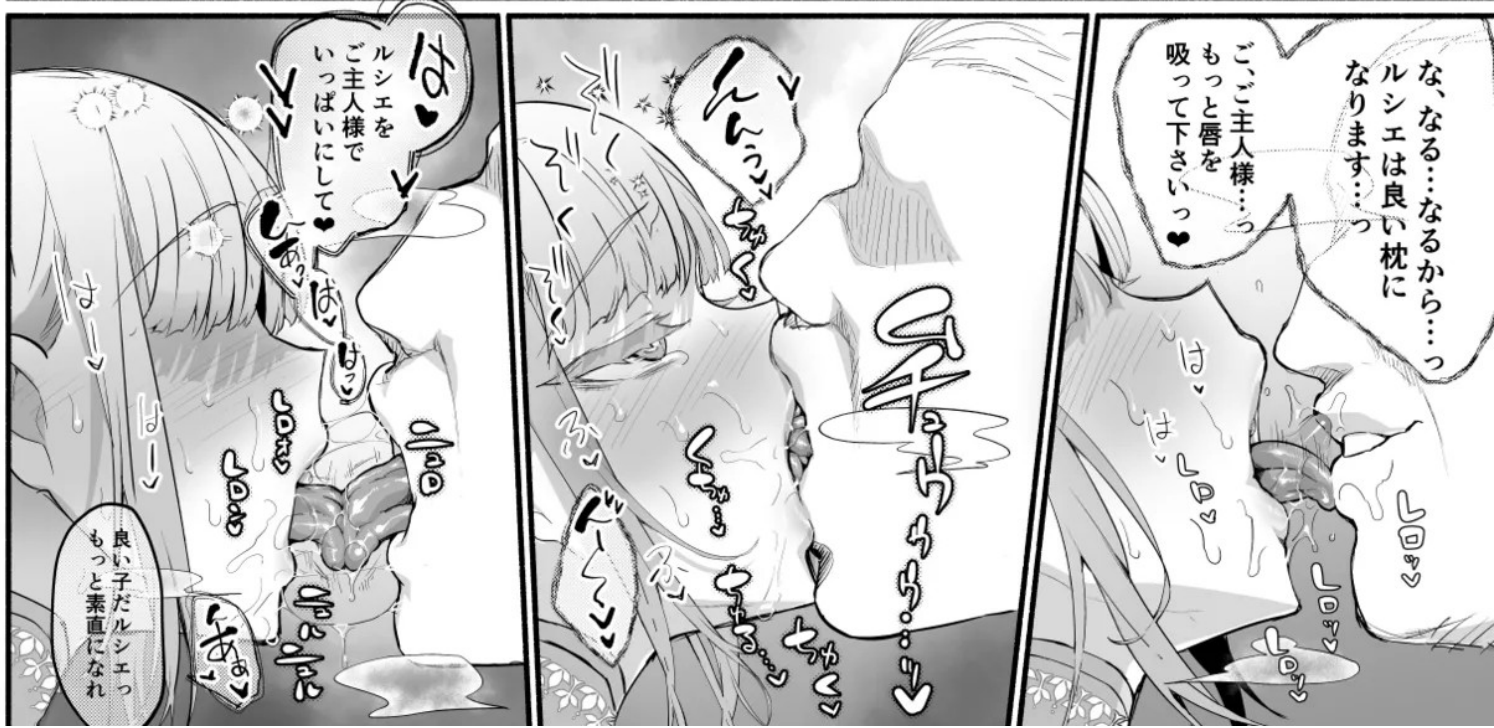
私の側に
いてくれるのは
ご主人様だけ…



あ…
いやだ…っ
捨てないでっ
一人はこわいっ

もちろん捨てないさ
良い抱き枕を捨てる
理由などないからねえ

おほ…
なんという
締め付け…



な、なる…なるから…っ
ルシエは良い枕に
なります…っ

ご主人様…っ
もっと唇を
吸って下さいっ

良い子だルシエっ
もっと素直になれ



ご主人様のチンポすごいっ
そこっ♡ごりごりっつてえ♡
気持ちいいっ♡

よしよし♡
ここ好きか
たくさん
コスってやる♡



突くたびに嬉しそうに
チンポ抱きしめて…
こんなかわいい枕は
初めてだよ♡



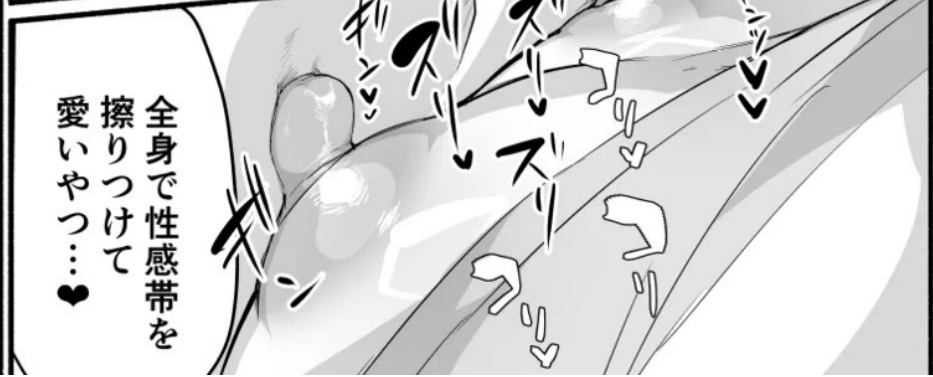
ご主人様…♡
嬉しいっ♡



気持ちいい♡
こわいっ♡
ご主人様の腕…
安心する♡

私を埋めるのは
この快樂だけ…♡

もっと♡もっと突いて♡
めちやくちやにしてっ♡
完全に壊してっ♡



全身で性感帯を
擦りつけて
愛いやっ…♡



人に心を許すこと…
甘えること…
愛すること…
愛されること…

ずっと
怖かった…



キレイだ♥
かわいいね♥
大好きだよ♥

ああ…
今確かに
抱き合ってる…♥

身も心もゆだねて
愛し合うこと…
こんなに…っ

私だけは君を
絶対に捨てない

手放したり
しない

壊れるまで…
いや…壊れても
私の手元に置こう…♥

うれしいっ♥♥♥



しあわせ……♡

離さないで……
ご主人様……♡
ご主人様……♡

離さないとも
ハハハ
甘えよってから♡
不安なら
所有物として
名前を書いて
あげよう♡

しあわせ……♡

ドキ

しあわせ……♡

しあわせ……♡
しあわせ……♡
しあわせ……♡



名君、セイレヴ国王は
クローナ王国を支配下に置いた後
優れた内政の手腕で凍えた経済を立て直し
多くの飢えた民にパンと水、仕事を与え
自国の民と同じように扱った

暴君ルシエと彼の黽^母つた国は歴史には残らない
ひっそりと名君の傍ら、彼を慰める仕事にその生涯を費やし
主の死とともに美しい愛玩家具は葬られたのであった

～終わり～

ルシエ・ラ・クローナ

ルシエの母親はとても心優しく美しい女性で
王にも国民にも愛されていました。
身体が弱くルシエを出産と同時に亡くなり
妻をとっても愛していた王様は悲しみのあまり
廃人になってしまったのです。

ルシエは父親に構ってもらおうとしていた時期もありましたが
いつしか腑抜けた王を見下すような言動をとり
自らが王のようにふるまうようになりました。
しかし、内心ではずっと愛されたい気持ちを抱えていました。
ルシエは誰も信頼できず、媚びへつらう大人たちに囲まれ
わがままで残虐で孤独な王子になってしまいました。

本来なら、両親の愛をいっぱいを受け、
美しく聡明で優しい王子として、民から愛されたことでしょう。



瞳孔はちよつと縦長
まつ毛が長い
肌が白い
青っぽい銀っぽい
サラサラの髪
身長158cm
年齢16才

ルシエは罪人たち(気に触った国民)を気まぐれに拷問し
死ぬまで劣悪な環境で飼い、時々見せしめに城下に連れ歩き
国民を畏怖させ支配しようとしてしました。
やがて、城に出入りしていた商人や闇医者が、
その中から商品価値のある者を見繕い、
体裁を整えて隣国に奴隷(家具)として売っていました。

その方が、罪人にとっても(ルシエに飼われるよりは)待遇も良く
食料をほかの罪人に回したり、売上金でめちゃくちゃな経済を
なんとか成り立たせていました。

今回ルシエが売り飛ばされたのは、彼に不満を持った民たちが増えすぎて
団結した結果ルシエにへつらってた貴族達より力を持ってしまったからです。

傲慢王子の抱き枕

あとがき

こんにちは、この本を手にとっていただき、本当にありがとうございます！

一度、好みの美少年の欠損ホモエロ同人を出してみたかったので
何をしてもいい美少年を作りました

傲慢で性格が最悪で高貴で高慢な美少年が破滅して凌辱されて
堕ちないように頑張ってるのが好きです

今回も堕ちないでほしい気持ちがあったのですが
ハッピーエンドが良いかなと思って堕としました

かわいそうなルシエ君を見て心を痛めた方がいたらすみません
最終的にルシエ君は幸せに暮らしました

(王様が年老いて、ルシエ君が青年になってもずっとかわいがりました)
(王様が青年いけるなら、ルシエ君のお父さん雑に殺さずに
親子丼すればよかった…とこれ書いててちょっと思いました)

改めて、この本を読んでいただきありがとうございました
また読んでいただけるようにがんばります

傲慢王子抱き枕

発行日	2025/12/31
発行者	油鍋式/puru
lit. link	https://lit.link/puru0623
連絡先	aburanabeshiki@gmail.com
印刷所	大陽出版(株)

※本書には猟奇表現、暴力表現が含まれます。
※本書の内容は全てフィクションであり実在の人物や団体とは一切関係ありません。
※本書の18歳未満の方の閲覧、購入、所持は固く禁じます。

禁 無断転載
Do not repost to other sites.
禁 AI学習使用
Do not AI Learning.



←
何かあれば
なんでも適当に
送ってください

